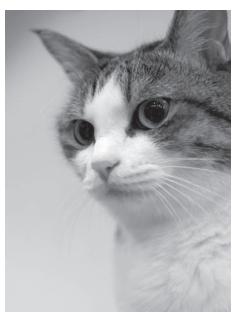


境だより



野良猫のこと



適正飼育のススメ

△生まれる子に責任がもてないならば不妊去勢手術をしましょう。
△室内で飼育しましょ（庭だけ出しています、絶対帰ってきます：）
といつて猫を交通事故で亡くしたり迷子にしてしまったりする人がいます）。

△予防接種など適切な医療を受けさせましょ。

近頃、野良猫や犬にかかる苦情が多くなりつつあります。ペットブームの影響もあるかと思いますが、その都度、個別に愛知県動物保護管理センターに依頼したり、地域で活動をされている団体に相談して対応しているのが現状です。今回は、そのような地域活動団体の意見を紹介します。

人間もどうぶつも暮らしやすい社会へ

私たち、ねじれむ nyamizocompany のもとには犬や猫に関する相談の電話がたくさん入ります。それらの発端は動物の問題ですが、最終的には住民同士の問題となっています。多くの場合が多くを占めています。

「猫が増え迷惑だ、鳴き声、糞尿が増えて迷惑だ、鳴き声、糞尿が増えて欲しい」とか、「猫が増えて迷惑だ、鳴き声、糞尿が増えて欲しい」とかして相談です。問題を丸投げにする方には何もお手伝いはできません。できるところに、できないことがあります。これをフォローするのが私たちの仕事です。「不幸な猫を増やさない」今い

る猫を一代限りにするための不妊去勢手術をおこない、地域で見守る「地域猫活動」は地域で暮らす方々の取り組みにより、住民同士のトラブルを解決する手段のひとつです。耳の先がカットされた野良猫を見たことがある方もいるでしょう、あれは手術を済ませた猫の印なのです。

資金や時間に限界のある活動の中で、命の短い猫たちに手術をする必要はないのではないかという声も聞きますが、1頭から70頭あまり生まれるのが猫の繁殖能力の強さです。命を削つて子猫を育て、その子猫たちは半年で親になるのです。

そもそも野良猫はなぜいるのか。それは人間が猫を遺棄したり、飼い猫を家の外に出したりして繁殖させたからです。この問題で文句ばかり言っている私たち人間が元々の原因を作っているのです…。

問合せ先 環境経済課
95-1613